この人と一期一会

第3回

どこかで異常気象が起きたら、それは他人事ではなく、また別のところでいつ何が起きてもおかしくない状況なのです。

気象予報士

加藤　祐子さん

―空港スタッフとして航空業界でのお仕事の経験をお持ちですが、どのようなきっかけで気象予報士を目指されたのですか。

「天気にさんざん振り回されていたので、逆に攻略したい!!という気持ちから気象予報士の勉強を始めました」

航空業界には2年弱勤務しましたが、飛行機の運航と天気は密接な関係があって、悪天候になると欠航や遅延が生じてしまい、仕事がとても忙しくなるので、天気予報は毎日必ずチェックしていました。

ある時に転職を考え、資格や何かスキルを身につけたいと思い、これまで天気予報もよく見ていましたし、天気にさんざん振り回されていたので、逆に攻略したい!!という気持ちから気象予報士の勉強を始めました。

転職といっても、もともと飛行機のそばで働きたいという気持ちが強かったので、飛行機の安全運航、定時性、快適性の向上のために上空の天候の状況や、各飛行場の運用状況などの情報をパイロットに提供し、運航をサポートする「航務」という場所がとてもカッコいいなという感覚があって、そこで働くことを目標としていました。

その後、気象予報士の勉強を進める中で、現在所属している会社と関わりができ、気象予報士の資格を活かすことを考え、現在の仕事に就くことになりました。

―TV番組の短い時間の中で分かりやすく天気予報を伝えるために、どのようなことに気をつけていますか。

時間が限られていますので、ポイントを絞ること、伝えたいことがたくさんあっても、的確に情報を選択し、視聴者の立場に立って、知りたい情報とそうでない情報を選ぼうと心がけています。

例えば気温について、「最高気温は何度です。でも風が強まりますので体感的には寒く感じそうです」など、数字だけでは読み取れない部分をフォローしていこうと思っています。

また、NHKの場合、100インチの大型のタッチパネルがありますので、それもうまく使って、効果的に予報を伝えていこうと心がけています。

―昨年、神戸や東京などでゲリラ豪雨による災害などが発生しました。世界

的にも干ばつや洪水など地球温暖化に関係すると思われる異常気象が頻発していますが、気象予報士としてどのようにお考えですか。

「地球上のどこかで干ばつがあると、離れたところで大雨が降るなど、地球全体でバランスを取ろうとしています」

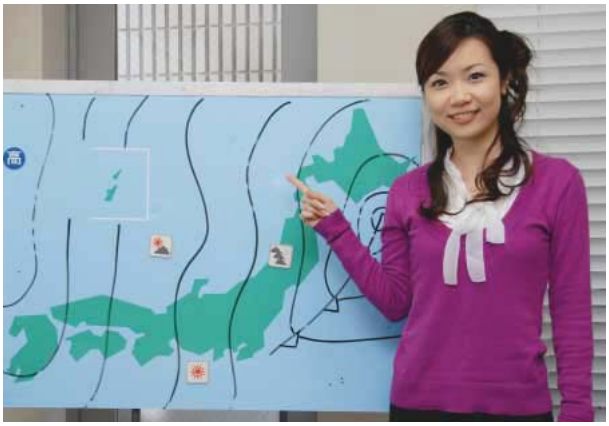
自然災害が起こると、すべてが地球温暖化のせいだとマスコミなどは騒ぎ立てますが、自然災害はいろいろな要素が混ざり合って起こるものです。都市化など因果関係がいくつも関係しているので、視野をもっと広く持った方が良いと思います。ただ、異常気象が起こりやすくなっているのは確かですし、それをもっと認識していくべきだと思います。

天気は、補完性といいましょうか、バランスを取ろうとしていて、地球上のどこかで干ばつがあると、離れたところで大雨が降るなど、地球全体でバランスを取ろうとしていることがよくあります。今回のオーストラリアの干ばつも、気象庁はインドネシアでの対流活動が活発で雨が多かったことが関係していると発表しています。

どこかで異常気象が起きたら、それは他人事ではなく、また別のところでいつ何が起きてもおかしくない状況なのです。

―「フラ・ニーニャ」のように楽しく天気の知識を伝える活動をされていますね。

学生時代にフラダンスの経験のある気象予報士が、天気予報とフラダンスを絡めたパフォーマンスをやりたいと、なぜか経験のない私が誘われて始めたのが「フラ・ニーニャ」です。



〔「フラ」はフラダンスのフラ。ハワイ語で「踊る」。「ラ・ニーニャ」は気象用語のラ・ニーニャ現象。スペイン語で「女の子」。「ラニ」はハワイ語で「空」。「踊る」＋「空」＋「女の子」＝フラ・ニーニャ。フラと天気のつながりを表現〕

現在は、天気予報の出演の仕事を優先しているので、活動は休止しています。以前は依頼に応じて幼稚園・保育園や介護福祉施設などを訪問してフラダンスを踊りながら、楽しく分かりやすく天気予報を伝えるお天気教室のような活動をしていました。

―気象庁では近年、気象監視・予測体制を強化してきています。防災対策も担当する国土交通省に対しても、今後、期待している点や改善を望む点などをお聞かせください。

「長期的で広範囲な災害や、超短期的な災害に対する予防システムの構築を期待します」

気象庁の発信する情報は充実していて、一般の方でもホームページで閲覧できますし、私も仕事で活用させていただいています。

ただ、技術が進歩して、細分化・高度化することは良いのですが、細かすぎて、一般の方にとっては逆に分かりにくくなるおそれもあります。

例えば、竜巻注意情報など私たちは、仕事柄すぐに情報が入るのですが、一般の方は1日中パソコンにかじりついて見ているわけではないので、的確に伝わるとは限りません。重要な情報でも伝わらなければ意味がありませんので、今後、伝え方が課題であると思っています。

近年、自然災害の起こり方も変わってきています。防災対策という観点から考えていることは、台風や大雪によるものを短期的なことだとしますと、大干ばつのように、長期的で広い範囲で起こる災害が増えてきています。このような災害が起きたときに対応可能な、ダムなどとは違った貯水システムや、また逆に、ゲリラ豪雨などの超短期的な現象に対する災害予防システムなどができたらと思います。

聞き手　池光　崇（広報課広報企画官）

Profile　かとう　ゆうこ

気象予報士。成蹊大学法学部卒業後、羽田空港のグランドスタッフを経て、(株)ウェザーマップ入社。「JNN1600」「JNNイブニング」(TBSニュースバード)「生島ヒロシのおはよう一直線」「森本毅郎スタンバイ!」「大沢悠里のゆうゆうワイド」(TBSラジオ)などに出演。現在、NHK総合「おはよう日本」(月～金)に出演中。